

目的 本誌は1912年～1914年にかけてパリで発刊されたファッション誌である。この資料に含まれる解説とファッション・プレートをとおして、20世紀初頭のパリを中心としたヨーロッパのファッションの動向と、それを支えた生活と文化を考察する。

方法 月3回発刊された本誌は、全79巻、各巻共にさまざまな情報が含まれた解説が8ページついている。各巻に2～3枚ずつのファッション・プレートが挿入され、合計186枚で構成されている。この解説内容の分類と、プレートに表現された図像を中心に解析する。

結果 本誌の解説に登場する内容は次のようになる。パリを中心にした当時の話題、当時の文学や劇、余暇や社交会の記事、流行の服装などである。これらのことより、当時の人々の関心事や生活の様子、流行の装いなどがわかる。執筆者の中には、アナトール・フランス、ダヌンチオ、ジャン・コクトーといった当時の中心的作家が含まれた。

プレートの内容は、室内では家族のだんらんや、社交会のシーン、食事風景もある。室外ではテニス、ゴルフ、狩猟などスポーツのシーンや、船上、海水浴シーンもある。また劇の登場人物や舞台衣装、タンゴを踊る姿も見られ、当時の関心事がわかる。プレートを描いたイラストレーターには、当時から第一線で活躍したバクスト、イリーブ、マルタンをはじめ、後に代表的アーティストとなったG.バルビエらがいた。本誌は当時の芸術、文化の中心人物たちによって作られた質の高い情報で、単に服装だけではなく、当時の人々の憧れていた生活を示すもので、今日のファッション誌の源流とも言える。